

## 令和4年度 研究・研修計画

### 1 研究主題

「『分かる』『できる』授業(活動)を目指して」 ～主体的に活用できる情報提示の工夫～

### 2 研究主題設定の理由

#### (1) 子どもの実態から

当校は、聴覚障害教育（幼稚部から高等部専攻科まで）と知的障害教育（高等部普通科）を行う学校である。聴覚部門では、近年、難聴の早期発見や人工内耳装用児の増加、在籍数の減少、障害の多様化等の傾向が顕著である。その中でも特に、発達障害を合併する、もしくは疑われる聴覚障害児への適切な支援が強く求められている。一方、知的部門（普通科）では、電車等による自力通学が可能な生徒が在籍しているが、自分の気持ちや考えを相手に伝えること、他者の指示や意図を理解することが苦手なため、周りと関わりながら集団生活を営む上で困難を有する生徒が多い。

聴覚部門・知的部門共に「聴覚情報を受信することの困難さ」「視覚情報の優位さ」という特性を抱えている子どもは多い。言語中心のやり取りでは曖昧さが生じるため「分からない」「できない」が積み重なり、自分に自信が持てなかったり、周りとうまく関われなかったり、という共通の課題をもっている。また、在籍数の減少による「集団の中での体験の少なさ」が加わり、人と関わりながらお互いに高め合って新たな発見をしたり成長したりする機会が少ないという現状がある。そうした子どもたち一人一人の「知りたい」「できるようになりたい」「伝えたい」「みんなと一緒に楽しみたい」という思いを実現するため、日々の学校生活の中で、学習内容や語彙をいかに理解させ、「分かる」「できる」授業（活動）に結びつけられるかが当校の大きな課題と考える。

#### (2) 新学習指導要領から

平成29年3月に告示された幼稚園教育要領・小学校及び中学校・高等学校の学習指導要領の前文には、共通して次のような文がある。「一人一人の幼児・児童・生徒が、(将来、)自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること(するための基礎を培うこと)が求められる。」

これらを当校の子どもたちの実態から捉え直すと「ありのままの自分を受け止め、自分のよさや可能性を実現することができる」「他者の存在を意識し、自分とは異なる立場や考え方を尊重し、認めることができる」「一人では難しいことも仲間と共に活動することで、お互いのよさを生かし苦手な面を補い合いながら乗り越えられるという体験を重ねることができる」という目指す姿が見えてくる。こうした姿を意識しながら実践を重ねることで、現在の社会で求められている力、すなわち「未知なる社会の変化に立ち向かい、よりよい人生を切り拓いていく力」を育むことにつながるのではないかと考える。

以上の理由から、引き続き「『分かる』『できる』授業(活動)を目指して」を研究主題として設定し、これまで進めてきた情報をの inputs に焦点化した研究をさらに発展させ、今年度は情報を子ども達が主体的に活用できる情報提示を工夫することで研究主題に迫っていきたいと考える。

### 3 研究の構想と内容

#### (1) 子ども達が情報を主体的に活用できるための研究

##### 【学部研修・寄宿舎研修】

○幼児・児童・生徒の発達段階や実態、学部の実情に応じ、授業（活動）において子ども達が自ら考え、行動し、表現できるための情報提示をどのように工夫したらよいかについて実践を踏まえて研究をすすめる。

・聴覚部門：北豊研長岡大会に向けて（2年計画1年目） ・普通科：学部の実情に応じた取組

##### 【授業公開】<1学期：授業参観 6・7月（兼新任研） 2学期：授業公開週間>

○研究・研修内容を取り入れ、主体的な情報活用を意識した授業(活動)を計画・実践・公開する。

○系統性を意識しながら他学部の授業を参観する。

(2) 専門性向上のための研修

【全体研修】

- 前年度の課題の確認・研究テーマについての共通理解・学部研修計画（4・5月）
- 授業ガイドライン・考える習慣について（6月）
- 北聾研講演視聴【講師：国立特別支援教育総合研究所 山本 晃 氏】（9月）
- 全日聾研記念講演視聴 【講師：岐阜聖徳学園大学 教授 玉置 崇 氏】（10月下旬～11月上旬?）
- 外部講師による研修【講師・実施日時等 未定】

【新任研】

- 聾学校が初めての教職員を対象に聴覚保障・手話等、新任者にとってニーズの高い内容の研修
- 授業づくりの参考となるDVD貸出、資料紹介等

【外部研修会】

- 北陸地区聾教育研究会（北聾研）：幼・小・中・高(産)部会による研究協議会（寄宿舍は資料交換のみ）  
・研究発表はR2・3年度の研究成果を中心にまとめる
- 新潟県知的障害教育研究会（県特知研）：高(普)
- 全日本聾教育研究会（全日聾研）：参加方法は未定
- 新潟県聾教育総合研究会(総研)：学部ごとに新潟聾学校との合同研修及び情報交換等を行う

4 年間研究・研修計画

月	主な動き・行事等	研究・研修
4	入学式 市郡教研総会(4/22) 北聾研理事会(4・5月中)	*新：学校で使う簡単な手話（4/4(月)) *新：聴能について（基礎編）（4/13(水)） *新：聾学校の授業について+大塚聾DVD等（4/14(木)） ★学部研修：昨年度の学部研修のまとめについて（読み合わせ+共通理解）
5	運動会(5/28)	○全体研修Ⅰ（5月）☆研究テーマの説明+★学部研修計画の検討
6	総研運営委員会(未定)	○全体研修Ⅱ（6月）☆授業ガイドライン「考える習慣」について ○授業参観週間（～1学期末）：*兼新任研
7	北ろう体(7/27・28)	★総研：各学部の計画による（～2学期中）
8	北陸EAA(未定) 市郡教研研修(未定)	☆県セン ICT研修・7/25(月)：知・8/26(金)：聴 →情報管理部・ICT教育係 ○外部講師による研修
9	北聾研(9/22)	○授業公開週間（2学期中）+ 寄宿舍指導員参観期間 ☆北聾研参加（幼・小・中・高産・舎）→参加報告（学部ごと、または全体） ・分科会：公開授業・協議題についての意見交換、指導助言等 ・講演会：「新学習指導要領を踏まえた聴覚障害児への指導の在り方」
10	全日聾研(10/6・7) 文化祭(10/29)	☆全日聾研愛知大会参加（開催方法未定） ・公開・指定授業、授業研究分科会、研究協議分科会 ・記念講演「令和の日本型学校教育を実現するために」
11		
12		★学部研修のまとめ+次年度の課題（～1月末）
1		
2		○研修のまとめ作成
3	卒業式	○研修のふりかえり（全体会 or 紙面のみ）